

V

平生图



44 両班の夜間外出



1 輦台 (平輦子)	1 평교자	32 卷上げ髪	32 얹은머리
2 担い綱	2 멜빵	33 チョゴリ (半回装)	33 반회장저고리
3 担い綱を肩にかける	3 멜빵을 어깨에 걸어 평교자를 지다	34 チマ	34 치마
4 フェルト帽 (ボンゴジ)	4 빙거지	35 草屋根	35 초가지붕
5 上衣 (小氈衣)	5 창옷	36 垂木	36 서까래
6 チョゴリ	6 저고리	37 門柱 (自然木)	37 문기둥 (자연목)
7 パッチ	7 바지	38 枝折戸	38 사립문
8 藁履	8 짚신	39 網代垣	39 사자리담
9 帽子 (黒笠)	9 흑립	40 提燈	40 제등
10 上衣 (帖裏)	10 철릭	41 築地塀	41 관측담
11 帽子 (紗帽)	11 사모	42 瓦屋根	42 기와지붕
12 公服 (団領)	12 단령	43 格子窓	43 격자창
13 角帯	13 각대	44 火防壁	44 화방벽
14 鹿皮履	14 목화	45 門柱	45 문기둥
15 芭蕉傘 (芭蕉扇)	15 파초선	46 門扉	46 문비
16 日傘	16 일산		
17 荷を背負う	17 짐을 지다		
18 上衣 (道袍)	18 도포		
19 結び紐 (ゴルム)	19 고름		
20 帯 (細条帯)	20 세조대		
21 皮履 (バルマク)	21 발막		
22 青紗燈籠	22 청사초롱		
23 飾り羽根 (禦毛)	23 삭모		
24 軍服 (狭袖)	24 동달이		
25 軍服 (戦服)	25 전복		
26 帯 (戦帯)	26 전대		
27 篝火	27 화툇불		
28 松明	28 햇불		
29 脚絆	29 행진		
30 脇に抱えて運ぶ	30 옆구리에 끼고 나르다		
31 松明を背負う	31 햇불을 짊어지다		

満月の夜に、兩班の一行が、両側に家が並ぶ集落内の道を通り歩いていく様相を描いている。輦台に乗った人物は虎皮を敷いてすわっており、貫禄もあり、朝服を着用していることから、それなりの地位にある兩班と思われる。供の者が大きな芭蕉扇をかざしている。一行の前方で2本の松明で道を照らし出し、さらに篝火をたき、輦台の前を明るくしている。多くの従臣を従え、行列を組んで進んでいる。一行の中には女性はおらず、全員が男性である。公的な外出かと思われる。しかし、この一行は誰も武器を携行していないことが注目される。輦台は前2人、後2人の担い手によって担われているが、日本のように直接肩で担うのではなく、両肩に担い綱をかけて、それを前後の横棒に結んでいる。そのため、輦台の

位置は非常に低い。主人は椅子に腰掛けるように輦台の座席にすわっている。

道の左側の建物は草葺き屋根であり、粗末な家のように見える。しかし、家を囲んで網代編みの垣根が巡らされ、出入り口には屋根を設け、観音開きの扉をつけた門がある。その開けられた門扉に半分姿を隠しながら、一人の女性が一行の通過する様子を見ている。垣根の上に提燈が道に向かって出されていることから判断して、料理屋であったかと思われ、そこで働く女性であろう。反対側の家は大きな屋敷を構えているように見受けられる。木の門扉を設けた立派な門を構え、また背後にはしっかりした築地塀を構えている。一般農民の家ではなく、この地の有力な者の屋敷であろう。(福田)

45 峠を越え行く官吏一行





- | | |
|------------------------------|------------|
| 1 <small>えびら</small> 箆 | 1 화살집 |
| 2 帽子 (黒笠) | 2 흑림 |
| 3 矢筒 | 3 진통 |
| 4 馬 | 4 말 |
| 5 槍飾り (蠹) | 5 뚝 |
| 6 幡 (高招旗) | 6 치 |
| 7 旗 | 7 기 |
| ⑧ 楽隊 (大吹打) | ⑧ 악대 (대취타) |
| 9 フェルト帽 (戦笠) | 9 전립 |
| 10 喇叭 | 10 나팔 |
| 11 縦笛 | 11 피리 |
| 12 <small>にようばち</small> 鏡鉞 | 12 자바라 |
| 13 法螺貝 | 13 나각 |
| 14 鞆鼓 (長鼓) | 14 장고 |
| 15 軍服 (戦服) | 15 전복 |
| 16 軍服 (狭袖) | 16 동달이 |
| 17 帯 (戦帯) | 17 전대 |
| 18 棍棒 (棍杖) | 18 곤장 |
| 19 棍棒 (朱杖) | 19 주장 |
| 20 輿 (双轎) | 20 쌍가마 |
| 21 觀察司・官職 <small>ながえ</small> | 21 관찰사 |
| 22 轎 | 22 뿔대 |
| 23 上衣 (帖裏) | 23 칠릭 |
| 24 棍棒 (鐵鞭) | 24 철편 |
| 25 槍 | 25 창 |
| 26 孔雀羽 | 26 공작우 |
| 27 お下げ髪 | 27 땅은머리 |
| 28 見物人 | 28 구경꾼 |

觀察使とその一行が、峠道を越えて、新たな赴任地へおもむく様子を描いた絵だとされている。先頭を2頭の馬と、矢を背負った武官風の者が先導し、箭筒らしきものを背負った2人の男、幟や旗を持つ者、楽隊、輿が続く。楽隊は太鼓、法螺貝、鏡鉞、笛その他の楽器があり、賑やかに演奏して進んでいる。輿の周りには棒状の武具を手にした者がおり、輿を警備していることが分かる。

輿には觀察使が乗っている。輿は前後2頭の馬によって担われ、運ばれている。前後の馬の間に木の支え棒(轎)を2本わたし、その棒の上に輿が載っている。馬だけでなく、多くの人間も肩を入れて助力している。これを双轎という。觀察使は左側の窓を開け、外の様子を見ている。右側には滝が見えるので景色が良い場所なのであろう。

朝鮮時代に地方の官衙につとめる役人には、地方民から登用された郷吏と中央から派遣された都事、判官、中軍などがいた。觀察使は、これらの上に位置する地方行政(道)の最高責任者である。王の代わりに地方行政や軍隊の指揮を任せられ、兵馬節度使や水軍節度使を兼務することが多かった。村の生活者にとっては、各郡(近年の市・郡の単位)を任されていた守令ですら、たいへん身分が高く、おそれ

多い存在であったが、觀察使は守令の成績をも評価する地方行政で最も身分の高い存在であった。

山際には、複数の家族と思しき人たちがいる。近在の農村の住人であろう。腰を下ろしたり、立ったままで行列を見ている。身分が高い者の行列が通る際には、前を横切ったり、知らぬ顔をして通り過ぎたりすると犯馬の罪で罰を受ける。そのため、住民は立ち止まり、敬意を表さねばならなかった。

輿を担ぐ者の姿勢や、馬の後押しをする者の存在から、輿の重さが伝わってくる。警備の者だけでなく楽士も多くつき、たいへん長い行列である。輿の後ろには、隊列を後ろから見通している監督者のような者もいる。1人の者に43人という大勢の付き人や楽隊がいることから、赴任者の身分の高さが窺える。(中野)

46 官吏の一行と土下座する男



- | | |
|----------------|------------|
| 1 帽子 (黒笠) | 1 흑립 |
| 2 上衣 (道袍) | 2 도포 |
| 3 帯 (細条帯) | 3 세조대 |
| 4 馬丁 | 4 말구종 |
| 5 馬 | 5 말 |
| 6 鞭 | 6 채찍 |
| 7 輿を操る | 7 가마를 베다 |
| 8 フェルト帽 (ボンゴジ) | 8 빙거지 |
| 9 上衣 (小氈衣) | 9 창옷 |
| 10 チョゴリ | 10 저고리 |
| 11 パッチ | 11 바지 |
| 12 担い棒 | 12 멜대 |
| 13 虎皮の敷物 | 13 호피 |
| 14 車付き輿 (輶軒) | 14 초헌 |
| 15 車輪 | 15 바퀴 |
| 16 上衣 (帖裏) | 16 철릭 |
| 17 皮履 (バルマク) | 17 발막 |
| 18 飾り羽根 (槩毛) | 18 삭모 |
| 19 軍服 (狭袖) | 19 동달이 |
| 20 軍服 (戦服) | 20 전복 |
| 21 帯 (戦帯) | 21 전대 |
| 22 鹿皮履 | 22 목화 |
| 23 土下座をする | 23 무릎을 꿇다 |
| 24 振り向く | 24 돌아보다 |
| 25 扇子 | 25 접부채 |
| 26 脇に抱える | 26 옆구리에 끼다 |
| 27 大棟 | 27 용마루 |
| 28 瓦屋根 | 28 기와지붕 |
| 29 格子戸 | 29 격자문 |
| 30 築地塀 | 30 관측담 |
| 31 池 | 31 연못 |
| 32 蓮 | 32 연 |
| 33 柳 | 33 버드나무 |

集落内の道路を進んでいく官吏の一行を描いているものと判断される。整然と行列を組んで先導する従者の後に車付きの輿（輶軒）に乗った人物、その後には馬に乗った人物がおり、一行の中心部を構成している。輿は中央部に小さい車輪が付いており、一輪車というべきものである。前後各2人と真後ろの1人の計5人で支えて、前進させている。この種の乗り物は中国では見られず、また日本にもなかった。朝鮮独特のものであり、注目すべき乗り物といえる。この支配者の一行には誰一人として武器を携行している者はいない。

この図でもっとも注目されるのは、道路脇で膝を折り曲げ、両手を地面につき、頭を低くたれて土下座して一行を迎えている一人の人物が描かれていることである。土下座といっても、日本のような足を完全に曲げて地面に正座するのではないが、本来正座する習慣がないのであるから、これも土下座といってよいであろう。土下座している人物の前に一人の人物が立っている。この人物は一行に向かって少し頭を下げて挨拶をしている。この立っている者と土下座している者とは主従関係にあるのであろうか。関係ははっきりしないが、身分階層がはっきりと示されている。土下座という方式で相手に恭順を示すことは、日本では古くから行われた。朝鮮半島と日本の共通性として注目される点である。

道路の横には土塀が連なり、内部には豪壮な建物がある。それなりの地位のある者の屋敷と思われる。手前には石組のしっかりした縁をもつ池があり、蓮の葉が浮かび、花も咲いている。(福田)

47 科擧の合格祝い



1 先導	1 전도	27 上衣 (小氈衣)	27 창옷	53 火防壁	53 화방벽
2 帽子 (黒笠)	2 흑립	28 引き綱	28 끌줄	54 手をつなぐ	54 손을 잡다
3 文書入れ (紅牌)	3 홍패	29 白馬	29 백마	55 卷上げ髪	55 엷은머리
4 上衣 (帖裏)	4 칠릭	30 手綱	30 고삐	56 チョゴリ (半回装)	56 반회장저고리
5 パッチ	5 바지	31 鞞	31 밀치	57 チマ	57 치마
6 脚絆	6 행전	32 泥障	32 다래	58 飴売り少年	58 엷과는 소년
7 皮履 (バルマク)	7 발막	33 鎧	33 등자		
8 子供	8 아이	34 頭巾 (幞頭)	34 복두		
9 うない髪	9 짧은머리	35 御賜花	35 어사화		
10 チョゴリ	10 저고리	36 公服 (団領)	36 단령		
⑪ 楽隊	⑪ 악대	37 笏	37 홀		
12 横笛	12 대금	38 鹿皮履	38 목화		
13 縦笛	13 피리	39 鞍	39 안장		
14 鞞鼓 (長鼓)	14 장고	40 同行人 (陪行)	40 배행		
15 太鼓	15 북	41 築地堀	41 관측담		
16 桴	16 북채	42 子供を堀に座らせる	42 담장에 앉히다		
17 担い棒	17 멜대	43 子供を抱く	43 아이를 안다		
18 フェルト帽 (戦笠)	18 전립	44 木の枝に登って見物	44 나뭇가지에 앉아서 구경하다		
19 軍服 (狭袖)	19 동달이	45 草屋根	45 초가지붕		
20 軍服 (戦服)	20 전복	46 格子窓	46 격자창		
21 お下げ髪	21 땅은머리	④7 石橋	④7 석교		
22 芸人 (優人)	22 우인	48 橋板	48 상판석		
23 孔雀羽	23 공작우	49 橋桁	49 다리목		
24 扇子	24 접부채	50 橋脚	50 교각		
25 付袖	25 한삼	51 瓦屋根	51 기와지붕		
26 馬丁	26 말구종	52 突き上げ戸	52 들창		

三日遊街の行列が描かれている。行列は、人家に面した道を通り、石橋を渡りかけている。飴売りの姿も見え、町場を背景に描いたものであろう。

かつて科擧の文武科に及第すれば、放榜の儀式が開かれ、合格の印に王から牌、御賜花などが下賜された。漢陽(ソウル)では、政府が設ける祝賀宴(恩榮宴)が行われ、王へは謝恩礼を行い、翌日は孔子を祀った成均館の文廟で謁聖礼をした。また、世話になった人を歴訪し宴を開いた。試験官に対しては恩門宴、先進者(先輩)には回門宴、親戚、知人などには聞喜宴を開いた。その道中、合格した者が御賜花で身を飾り、芸人らに芸や音楽を披露させながら練り歩く。漢陽では、このような宴が三日間続くことが多かったため、三日遊街といわれるようになった。この様子は、朝鮮時代後期の漢陽の様子をうたった『漢陽歌』(1844)にも認められる。家へ戻ると、祖先を祀る祠堂で告祀を行う。文科に合格した者は紅牌を、武科に合格したものは白牌を貰うので、それぞれ紅牌告祀、白牌告祀といった。ま

た、祖先の墓を訪ね、掃除をして拝んだ。これを掃墳といった。

この絵では、合格した者が白馬に乗り、徒歩の者を従えている。行列は、紅牌を手に抱える者(3人)、三弦六楽の楽士達(8人)、才人(3人)、そして、合格者の乗る馬を引く者、馬と合格者、従者(5人)の順となっている。一般には、貧しくて才人を雇えないことが多く、その場合は、「科扶」といって友人達が持ち寄ったもので祝ったという。才人を3人雇っていることから、これは富裕な家の者を描いているといえる。堀越しに見る人々や、通りに立つ見物人の存在からも、注目を集めていることが分かる。

白馬に乗った男性は、御賜花を頭に挿している。御賜花は、紙でこしらえたムクゲの花を竹に飾ったものである。竹の一方の端を幞頭という冠の後ろに挿し、他方を頭越しに前方へたわませ、その端に結んだ絹糸を口に銜えてとめるものであった。この絵では、口ではとめていず、手に持つ笏に結ばれているようだ。(中野)

48 街中を進む嫁迎え



① 同行人 (陪行)	① 배행	33 チョゴリ (半回装)	33 반회장저고리
2 帽子 (黒笠)	2 흑립	34 腰帶	34 허리띠
3 笠紐	3 갓끈	35 チマ	35 치마
4 上衣 (中致莫)	4 중치막	36 下着のパッチ (ダンソッゴッ)	36 단속곳
5 帯 (細条帯)	5 세조대	37 下着のパッチ	37 바지
6 脚絆	6 행전	38 篋	38 광주리
7 皮履 (バルマク)	7 발막	39 かつぎ (長衣)	39 장옷
8 青紗燈籠	8 청사초롱	40 <small>しりがい</small> 鞆	40 밀치
9 フェルト帽 (ボンゴジ)	9 빙거지	41 로바	41 나귀
10 上衣 (号衣)	10 더그래	42 草笠	42 초립
11 藁履	11 짚신	43 頭巾 (幅巾)	43 복건
⑫ 雁持ち (雁夫)	⑫ 기럭아비	44 子供	44 아이
13 帽子 (朱笠)	13 주립	45 瓦屋根	45 기와지붕
14 笠の飾り紐 (貝纒)	14 께영	46 格子窓	46 격자창
15 礼服 (簡易団領)	15 흘럭	47 垂木	47 서까래
16 木彫りの雁	16 목안	48 火防壁	48 화방벽
17 鹿皮履	17 목화	49 築地塀	49 판축담
18 馬丁	18 말구중	50 草屋根	50 초가지붕
19 引き綱	19 끌줄	51 門柱	51 문설주
20 馬	20 말	52 門扉	52 문비
21 面懸 <small>おもが이</small>	21 굴레	53 突き上げ戸	53 들창
22 手綱 <small>あおり</small>	22 고삐		
23 泥障 <small>あぶみ</small>	23 다래		
24 燈	24 등자		
⑮ 新郎	⑮ 신랑		
26 帽子 (紗帽)	26 사모		
27 公服 (団領)	27 단령		
28 角帯	28 각대		
29 笏	29 홀		
30 日傘	30 일산		
31 上衣 (帖裏)	31 칠릭		
32 卷上げ髪	32 엷은머리		

通過儀礼を描いた平生図のなかで、婚姻儀礼のうちの親迎を描いたものである。図のモデルは、正一品左議政の位まで上がった洪履祥 (1549～1615) とされる。高官であった洪履祥の婚姻儀礼を描いたものであるだけに、親迎の行列はかなり豪華であり、庶民のそれとは異なる。

新郎は官僚の礼服である団領に角帯、そして紗帽をかぶり、笏を手を持つ。この服装は「紗帽冠帯」と呼ばれ、結婚を象徴した。親迎の行列には、4本の青紗燈籠とその後ろに雁夫が木製の雁を手を持って続き、日傘持ち、新郎の乗った白馬を引く馬丁、そして同行人といった構成になるが、図には新郎の前後に数人の同行人を伴っている。新郎の家を代表して、祖父か父親、もしくは伯父が行列に同行するが、これを上客という。新郎の両側に立つ4人は後

行とって新郎の近親が務めるのが一般的とされる。3人の上客のなかの2人は、堂上官という高官のみ着用が許された桃紅色の上衣(道袍)を着ており、後行の4人も両班が着る青みのかかった道袍姿である。

木製の雁を抱える雁夫は朱笠をかぶり、服装も空色の団領である。雁は一生変わらない夫婦愛を象徴し、婚礼には欠かせないものであった。新郎の後を追う馬に乗った女性とロバに乗った男性は、新郎を世話するために同行しているのであろう。

婚礼は、家族、親族のみならず、村の人々にも大きな関心事であり、村では大きな宴が用意された。特に親迎は、新郎の行列を一目みようとする人々で賑やかになるのが通例である。図にも、門を開けて見物する人々や、窓越しに行列を眺める人が描かれている。

行列の構成をみると、上客、後行人が上流社会を示す服飾で身なりを整えており、4本も掲げた青紗燈籠の数からも、上流階級の婚礼であることが窺える。「檀園風俗画帖」の婚礼の図 (66-67頁) が庶民の親迎の行列を描いているのに対して、この親迎の行列には身分の違いが明確に描き出されているといえよう。(金)

49 結婚60年の祝い



1 大棟	1 용마루	25 燭台	25 축대	48 庇	48 차양
2 瓦屋根	2 기와지붕	26 花瓶	26 화병	49 長煙管	49 장죽
3 降り棟	3 내림마루	27 花瓶台	27 화병대	50 板の間	50 우물마루
4 天幕 (遮日)	4 차일	28 お下げ髪	28 땅은머리	51 欄干	51 난간
⑤ 新郎姿の夫	⑤ 신랑차림의 부	29 お下げ髪の先飾り	29 땡기	52 履物を脱いで上がる	52 신을 벗고 오르다
6 帽子 (紗帽)	6 사모	(デンギ)		53 膳	53 소반
7 公服 (団領)	7 단령	30 上衣 (帖裏)	30 철릭	54 チョゴリ	54 저고리
8 角帯	8 각대	31 草笠	31 초립	55 巾着	55 행낭
9 鹿皮履	9 목화	32 頭巾 (幅巾)	32 복건	56 脚絆	56 행전
10 帽子 (黒笠)	10 흑립	33 卷上げ髪	33 얽은머리	57 藁履	57 짚신
11 上衣 (道袍)	11 도포	34 前掛け	34 앞치마	58 花壇	58 화단
12 帯 (細条帯)	12 세조대	35 開き戸	35 장지문		
13 パッチ	13 바지	36 腰格子戸	36 띠살문		
⑭ 新婦姿の妻	⑭ 신부차림의 처	37 柱	37 기둥		
15 花冠	15 화관	38 礎石	38 주춧돌		
16 礼服 (大礼服)	16 대례복	39 縁側	39 윗마루		
17 冠	17 족두리	40 踏石	40 섬돌		
18 髷髪 (後髷)	18 쪽진머리	41 中門	41 중문		
19 チョゴリ (三回装)	19 삼회장저고리	42 門扉	42 문비		
20 腰帯	20 허리띠	43 築地塀	43 판축담		
21 チマ	21 치마	44 瓦塀	44 와편담장		
22 屏風	22 병풍	45 入母屋	45 합각		
23 祝いの机 (交拝床)	23 교배상	46 止瓦	46 막새		
24 祝いの食物	24 잔치음식	47 垂木	47 씨가래		

回婚礼の様子が描かれている。結婚60年を記念して、再び結婚の儀式を挙行し、子孫や知人が集って夫婦の長寿を祝う。この儀礼を回婚礼、あるいは回誓礼という。生まれてからの60年、科挙に及第してからの60年、結婚後の60年に祝いをできることはたいへん稀なことで、羨ましいものであった。以前にはこれら回甲・回榜・回婚は三大寿宴と言われた。回婚礼は、朝鮮時代後期によく行われ、風俗画にも残されているが、子や孫が亡くなっている場合は長生きしている夫婦であろうとも行わなかった。

この絵の場合、ある家の板の間(大庁)に祝いの机がしつらえられ、老夫婦を中心に多くの者が集まっている。これを、大礼床、あるいは親迎床、交拝床などともいう。板の間の前には天幕も設営されている。祝う人々の姿が板の間や内房、中門の手前の舎廊棟にも見え、大きな祝いであることが分かる。

板の間の奥には、牡丹を描いたと思われる5曲の屏風が置かれている。大礼床の上の器には積み重ねられた食べ物が3つ見える。具体的には何であるか分からないが、長寿を祝う物ではないかと推察される。回婚礼は、結婚の儀式の際の食物と、回甲の際の食物との二種の性格が見られるといわれている。

板の間では老夫婦が介添えの者に手伝われて腰を曲げているので、交拝の最中を描いたものと思われる。かつての大礼(婚礼)においては、交拝に続いて、夫婦が酒の盃を交わす合誓礼という儀式があった。大礼床の上の盃はそれに用いられるのであろう。回婚礼が婚礼の次第を模して行われている様子を窺うことができる。

庭にいるのは近所の女性と、下女及びその子供たちであろう。舎廊棟には客がおり、下女や下男がそこへ食物を運搬している。(中野)

50 初誕生



1 帽子 (グレ)	1 굴레	24 チョゴリ	24 저고리
2 チョゴリ (五色のチョゴリ)	2 색동저고리	25 패치	25 바지
3 兵児帯	3 돌띠	26 肩を抱く	26 팔로 안다
④ 祝い膳	④ 돌상	27 チョゴリ (ミンチョゴリ)	27 민저고리
5 硯	5 베투	28 瓦屋根	28 기와지붕
6 赤・青の巻き糸	6 다래실 (청실홍실)	29 垂木	29 씨가래
7 餅	7 떡	30 庇	30 차양
8 帽子 (黒笠)	8 흑립	31 角柱	31 모기둥
9 上衣 (道袍)	9 도포	32 礎石	32 주춧돌
10 帯 (細条帯)	10 세조대	33 踏石	33 섬돌
11 莫産	11 자리	34 基壇 (二層壇)	34 기단 (이층단)
12 長煙管	12 장죽	35 醬油甕	35 장독
13 灰皿	13 재떨이	36 甕置き台	36 장독대
14 火鉢	14 화로	37 築地塀	37 관측담
15 火箸	15 부젓가락	38 雌鶏	38 암탉
16 板の間	16 우물마루	39 雛	39 병아리
17 巻上げ髪	17 엮은머리	40 雄鶏	40 수탉
18 チョゴリ (半回装)	18 반회장저고리	41 犬	41 개
19 チマ	19 치마	42 門	42 대문
20 冠	20 족두리	43 楣 <small>まぐさ</small>	43 상인방
21 開き戸	21 장지문	44 蹴放 <small>けはなし</small>	44 하인방
22 前掛け	22 앞치마	45 門扉	45 문비
23 お下げ髪	23 땡은머리	46 門柱の礎石	46 신방석

ある家で行われた満一歳の誕生日、初誕生の祝いを描いている。広い庭に、瓦葺きの家屋が建っている。大きな庭木からも豊かで格式のある家であることが分かる。梅の花が咲いているので季節は春であろう。

部屋の中央に子供が座り、子供の前には初誕生の膳がある。子どもが被っているのは、刺繍の施されたグレという帽子である。服装は、セクトンチョゴリの上に、快子という袖無しの上着を着ているようだ。膳の上には、必ずしも判然としないが、左から硯、墨、大きな器、巻いた糸 (青・赤)、弓などが置かれている。中央に器があるが、何を入れてあるのかよく見えない。米や餅の類であろうか。この儀礼は、子供が何を掴むかによってその将来を占うものである。すでに子供は左手に筆を持っており、右手にも何かを持っているようだ。紙を掴んでいるという見解もあるが、かすれており明確には判別できない。筆や書籍は学問がよくできることを表す。例えば、糸を掴んだら長生き、本ならば学問がよくでき、お金なら金持ちになるなどと言われた。女の子の場合は、針、はさみなどを準備し、それをつかめ

ば、将来、針仕事を上手にできるようになると言われた。

子供の両脇から男女が、いずれかを手に取るように子に勧めている。この2人の男女は、男性の顔つきから見て、壮年の夫婦であろう。その脇でもそれぞれ若い男女が儀礼を見ている。子に物を取るよう促している男女が祖父母、その脇の男女が父母に当たろうか。

この家族は男女別に分かれて座っている。庭に立って部屋の中で行われる行事を窺い見ている者がいるが、左側の者は近所の女性や子供であろう。右側の者達は、この家で働く者であろう。成人男性の姿はなく、みな女性である。幼少の者は、これら下女の子達と見てよいだろう。これらの者を、床から一段下の庭に描くことで社会的地位を示し、三世代続く家族の将来性が豊かであることを示した絵といえる。庭には、雄鶏、雌鶏と、7、8羽のひよこが描かれている。朝鮮時代、学問や官職を志す者は、書齋に鶏の絵を飾り、立身出世を願ったという。(中野)